

学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和3年10月28日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
10月30日(土) 13:30~17:30	オンライン開催	公開シンポジウム 「歴史教育シンポジウム「歴史総合」をめぐって(5) - 「歴史総合」の教科書をどう作ったか - 」
10月31日(日) 14:00~17:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「子ども政策の総合化について考える」
11月1日(月) 14:00~16:10	オンライン開催	九州・沖縄地区会議学術講演会 「持続可能な地域の強靱化と将来空間像～防災・減災対策の次なるステージを目指して～」
11月3日(水・祝) 13:00~17:10	オンライン開催	公開シンポジウム 「地域共生社会における薬剤師像を発信する」
11月3日(水・祝) 13:30~17:00	オンライン開催	北海道地区会議学術講演会 「コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決に向けて - 記録・国際協力・情報技術 - 」
11月5日(金) 10:20~16:30	パルセいいざか (YouTube ライブ同時配信)	「原発事故から10年ーこれまで・今・これからの農業現場を考える」
11月5日(金) 10:30~12:30	オンライン開催	公開シンポジウム 「進化・発生・メカニカルストレスから探る顎顔面形成・維持機構最先端」
11月6日(土) 13:00~17:15	早稲田大学リサーチ イノベーションセンター (オンラインハイブリッド)	公開シンポジウム 「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題」
11月6日(土) 14:30~16:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「防災教育と災害伝承」
11月6日(土) 16:30~18:00	オンライン開催	「21 世紀の国難災害を乗り越えるレジリエンスとは～防災統合知の構築戦略～」
11月6日(土) ※オンデマンド形式: 11月30日(火)まで公開	オンライン開催	公開シンポジウム 「幼小児期・若年期からの生活習慣病予防」
11月11日(木) 13:00~17:00	オンライン開催	学術フォーラム 「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析技術」

11月12日（金） 13：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「フードシステムと養殖の未来」
11月20日（土） 13：30～15：50	オンライン開催	公開シンポジウム 「住居領域における専門教育と資格教育のあり方」
11月26日（金） 14：00～18：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「なぜ SDGs?—資源・材料循環における SDGs—」
11月30日（火） 13：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「科学的知見の創出に資する可視化（6）「総合知～幸福論からみた身心・細胞力、その真理の可視化～」」
12月5日（日） 13：00～17：50	オンライン開催	学術フォーラム 「地球環境変動と人間活動—地球規模の環境変化にどう対応したらよいか—」

主催 日本歴史学協会 日本学術会議史学委員会・同中高大歴史教育に関する分科会
後援 高大連携歴史教育研究会
歴史教育シンポジウム：歴史総合をめぐって (5)

「歴史総合」の教科書をどう作ったか

2021年10月30日(土曜日)午後1時30～17時30分 予定

オンライン開催・参加費無料・先着受付 (300名まで)

下記ウェブサイトまたは右のQRコードよりお申し込みください (〆切10月28日)
登録された方には、シンポジウムの前日、ZoomのURLとレジュメをお送り致します。

<https://forms.gle/J8mzAH6kRdUmJrxs9>



プログラム

開会挨拶

若尾政希 一橋大学教授・日本学術会議会員・日本歴史学協会委員長

趣旨説明

君島和彦 東京学芸大学名誉教授・日本学術会議連携会員

司会

中野 聡 一橋大学学長・日本学術会議連携会員

報告

成田龍一 日本女子大学名誉教授

歴史的実践としての「歴史総合」のために (仮題)

川手圭一 東京学芸大学副学長

「歴史総合」の構想と教育現場をつなぐもの (仮題)

廣川みどり 千葉県立袖ヶ浦高等学校教諭

「歴史総合」でできること、為すべきこと
—高校現場で考える—

コメント

長志珠絵 神戸大学教授・日本学術会議連携会員

閉会挨拶

栗田禎子 千葉大学教授・日本学術会議会員

日本学術会議史学委員会と日本歴史学協会は2016年以来、「歴史総合」に関してシンポジウムを開催してきた。2016年12月の中教審答申で「歴史総合」の設置が答申され、2018年3月に必修科目「歴史総合」と選択科目「日本史探究」・「世界史探究」の学習指導要領が告示された。「歴史総合」は、2020年度に教科書検定が行われ、2021年度に教科書採択も実施された。そして、「歴史総合」の授業が2022年4月から始まる。このような状況を受けて、2021年の歴史教育シンポジウムでは、「歴史総合」の教科書の執筆に関わった方々で、研究分野が日本史の方、外国史の方、高等学校で世界史の授業を担当されている方に報告を依頼した。「歴史総合」の教科書も完成したことを受けて、「歴史総合」をどう構想したかを再検討してみたい。

公開シンポジウム

子ども政策の総合化について考える

本シンポジウムでは、教育・福祉・医療などの縦割り行政を架橋する子ども政策を打ち立てている地方自治体や、子育て支援を展開するNPO法人の実践・成果・課題を紹介し、子どもの成長発達にかかわる政策立案における今後の検討課題を明らかにします。それにより「子ども政策の総合化」の重点を明確にするとともに、そのための体制等について具体的に検討・構想するための手がかりを共有します。

縦割り行政を架橋する「横の連携」はもちろん、出産・乳幼児保育から義務教育までの期間のみならず、高等学校や大学・専門学校などの高等教育機関への進学への支援、さらにはその後の就職の支援に至るまでの「縦の接続」を整備する必要性と重要性について共に考えます。

日程

2021年 10月31日



時間

14:00～17:00（開場13:30）



オンライン開催

P R O G R A M	【司会】	勝野 正章（日本学術会議会員 東京大学教授）
	【開会挨拶】	遠藤 利彦（日本学術会議会員 東京大学教授）
	【説明】	「子ども政策の現状と動向」 秋田 喜代美（学習院大学教授 東京大学名誉教授）
	【講演1】	「東京都の子供政策と東京都こども基本条例について」 梶原 洋（東京都副知事） 【コメント】一場 順子（弁護士・日弁連子どもの権利委員会幹事）
	【講演2】	「福祉と教育のはざまで子どもの成長を見守る」 荘保 共子（認定NPO法人こどもの里 理事長） 【コメント】岡部 美香（日本学術会議会員 大阪大学教授）
	【指定討論】	「子ども政策の総合化の意義と課題」 小玉 重夫（日本学術会議連携会員 東京大学教授）
	【閉会挨拶】	浅井 幸子（日本学術会議連携会員 東京大学教授）

参加費無料

オンライン開催

定員 500名

事前申込制



お申し込み

事前参加登録をお願いします。

<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/event/35507/>

参加申込への自動返信メールにて、当日のZoomのURLをご案内致します。
届かない場合は迷惑メールフォルダをご確認の上、下記よりお問い合わせください。



お問い合わせ

<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/contact-20211031symposium/>

※お返事までにお時間をいただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

【主催】日本学術会議心理学教育学委員会 排除・包摂と教育分科会

日本学術会議心理学教育学委員会 乳幼児発達・保育分科会

【共催】東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター（Cedep）





学術講演会

持続可能な地域の強靱化と将来空間像

～ 防災・減災対策の次なるステージを目指して ～

自然災害が多発する今日、防災・減災対策の次なるステージを目指し、安全・安心で持続可能な地域社会・地域空間を形成するための強靱化やまちづくりの方向性、そして長期的な視点に立った将来的な国土・地域空間のあるべき姿について議論を行います。

〈開催日時〉

令和3年

11/1月

14時00分～16時10分

〈開催方式〉

オンライン開催
(Zoom)

参加
無料

どなたでもご参加
いただけます

へ
プ
ロ
グ
ラ
ム
〉

1 開会挨拶 (14:00 ～ 14:10)

日本学術会議 副会長 菱田 公一、大分大学 総括理事 津村 弘

2 情報提供 (14:10 ～ 14:35)

気象庁大分地方気象台 台長 宮下 誠

3 パネルディスカッション (14:35～ 16:05)

「議題: 持続可能な地域の強靱化と将来像」

◎登壇予定者/国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所 所長 樋口 尚弘

大分県土木建築部 審議監 豊田 源太郎

佐伯市防災局防災危機管理課 課長 野崎 弘和

大分合同新聞社 上席執行役員・編集局長 小田 圭之介

◎コーディネーター/大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター長 小林 祐司

◎コメンテーター/気象庁大分地方気象台 台長 宮下 誠

◎コメンテーター/大分大学 経済学部教授 宮町 良広(日本学術会議連携会員)

大分大学 医学部教授 三重野 英子(日本学術会議連携会員)

4 閉会挨拶 (16:05 ～ 16:10)

九州・沖縄地区会議 代表幹事 玉田 薫(日本学術会議第三部会員、九州大学主幹教授・副学長)

参加申し込みはこちらから

このQRコードを読み取ることで
情報を取得することができます。



①上記のQRコードを読み取る。

②必要事項を入力の上、「送信」
ボタンをクリック。

③後日、ZoomのURLをお知らせ。

※入力いただいたメールアドレスへお知らせ
メールをお送りします。

公開シンポジウム

「地域共生社会における薬剤師像を発信する」

主催：公益社団法人 日本薬学会 日本学術会議 薬学委員会

後援：公益社団法人 日本薬剤師会、一般社団法人 日本病院薬剤師会、一般社団法人 日本医療薬学会、公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構、一般社団法人 薬学教育評価機構

開催方法：Web開催（YouTube Live配信、参加登録者は、11月17日（水）まで視聴可能）

2021年
11/3(祝、水)
13:00~17:10
参加無料

参加申込方法：11月1日（月）までに下記のURLまたはQRコードから参加登録をお願いします。前日までに【ミーティングID】 【パスワード】をお送りいたします。
<https://forms.gle/vtmksEYVKSRGW7QV6>



開催趣旨：近年の社会情勢の激変と相まって、持続可能な医療を担う薬剤師や創薬の専門家の育成に対する社会の要請や薬学教育を取り巻く環境はダイナミックに変化しています。特に、薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しや、卒後研修・専門薬剤師制度について検討が行われるなど、薬剤師の資質向上と職能に関する議論が活発に行われています。本シンポジウムでは、医学・看護学の教育動向も踏まえながら、地域共生社会で求められる薬剤師について議論を深めます。

【プログラム】（敬称略）

前半司会：堤 康央（日本学術会議 連携会員、大阪大学大学院薬学研究科 教授）

- **開会挨拶** 望月 眞弓（日本学術会議 副会長、日本薬学会 理事、慶應義塾大学 名誉教授）
佐々木 茂貴（日本薬学会 会頭、長崎国際大学薬学部 教授）
- **趣旨説明** 入江 徹美（日本学術会議 連携会員、日本薬学会 理事、熊本大学 名誉教授）
- **提言「持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」の発出とその後の対応**
安原 真人（日本学術会議 連携会員、帝京大学薬学部 特任教授）
- **卒前・卒後医学教育の動向**
北村 聖（地域医療振興協会 シニアアドバイザー）
- **多職種との連携・協働を発展できる看護職の教育**
小松 浩子（日本学術会議 第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学 学長）

■ 総合討論1 ■

後半司会：石井 伊都子（日本学術会議 連携会員、日本薬学会 副会長、千葉大学医学部附属病院 教授）

- **厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」で議論されたこと**
西島 正弘（薬学教育評価機構 理事長）
- **日本薬剤師会の政策提言について**
山本 信夫（日本薬剤師会 会長）
- **医療機関における薬剤師の卒後研修とキャリアパス**
山田 清文（日本病院薬剤師会 理事、名古屋大学医学部附属病院 教授）
- **薬剤師の専門性のあり方について**
矢野 育子（日本学術会議 連携会員、日本薬学会 理事、神戸大学医学部附属病院 教授）

■ 総合討論2 ■

- **文部科学省挨拶**
- **厚生労働省挨拶**
- **閉会挨拶** 平井 みどり（日本学術会議 連携会員、日本薬学会 監事、兵庫県赤十字血液センター 所長）

【問合先】 入江 徹美

〒862-0973 熊本市中央区大江本町5-1 熊本大学大学院生命科学研究部

TEL/FAX 096-371-4552, E-mail: tirie@gpo.kumamoto-u.ac.jp



オンライン開催

開催日時

令和3年 **11月3日** **水祝**
13:30~17:00
事前参加申込制 参加費無料
どなたでも参加いただけます

プログラム

《開会挨拶》

《講演》 飯島 渉 (日本学術会議連携会員、青山学院大学文学部教授)
「感染症をめぐる資料をどう残すか？」

詫摩 佳代 (東京都立大学法学部教授)
「新型コロナとグローバルヘルスガバナンスの課題」
※事前収録によるビデオ講演

川村 秀憲 (北海道大学大学院情報科学研究院教授)
「ポストコロナ社会に向けて —人工知能最前線と応用事例—」

萩田 紀博 (日本学術会議第三部会員、大阪芸術大学芸術学部アートサイエンス学科教授)
「ポストコロナ社会の行動様式を変革するサイバネティックアバターとは？
—ムーンショット目標1がめざす未来社会—」

《総合討論》 座 長: 宇山 智彦 (日本学術会議第一部会員、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)
パネリスト: 飯島 渉、川村 秀憲、萩田 紀博、
宮崎 千穂 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター非常勤研究員)

《閉会挨拶》

《司会進行》 大場みち子 (日本学術会議第三部会員、公立はこだて未来大学教授)

申込方法

参加を希望される方は、11月1日(月)までに下記URL
又は右のQRコードより申込みをお願いします。
(定員となり次第、受付は終了します。)



[https://hokudai.webex.com/hokudai/onstage/g.php?](https://hokudai.webex.com/hokudai/onstage/g.php?MTID=e6c3416211e39fcc2cc1ddf4b76140fb)
[MTID=e6c3416211e39fcc2cc1ddf4b76140fb](https://hokudai.webex.com/hokudai/onstage/g.php?MTID=e6c3416211e39fcc2cc1ddf4b76140fb)

※新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更等の措置をとる場合があります。

新型コロナウイルス感染症は国内社会・国際社会の様々な問題を浮き彫りにし、過去から未来に至る人類社会の変容と課題を考える機会となった。本学術講演会ではそれらの課題の中で、特に感染症に関する経験を未来に伝えるための記録作成・保存、世界保健機関(WHO)の活動など国際協力の在り方、感染症への有効な対応や行動変容を含むポストコロナ時代の社会課題解決に資する情報技術を取り上げ、議論する。

コロナ・ポストコロナ時代の 社会課題の解決に向けて —記録・国際協力・情報技術—

お問い合わせ先

日本学術会議 北海道地区会議事務局
(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課内)
Tel: 011-706-2155・2166/Fax: 011-706-4873
e-mail: suishin*general.hokudai.ac.jp
(上記mailアドレスの*マークを@に変えてお送りください。)

日本学術会議公開シンポジウム

「原発事故から10年－これまで・今・これからの農業現場を考える」

「日本土壤肥料学会・日本学術会議からの挨拶」

「はじまりは地震と共に：成果を繋ぐ研究の進展」

「農地土壌の放射性物質濃度分布図の作成について」

「除染後農地の問題点と農業復興に向けた取り組み」

「動きにくいセシウムの3つのかたち」

「作物を放射能汚染から守る黄砂の力」

「カリウム肥料を撒くことの効果－水稻－」

「ダイズの放射性セシウム濃度が高い理由」

「水稻におけるセシウムの吸収と体内での動き」

「これから歩む道-日本土壤肥料学会・日本学術会議の役割」

「総合討論」

「閉会の言葉」

波多野隆介（北海道大学・日本土壤肥料学会前会長/
日本学術会議連携会員/IUSS第2部門長）

塚田祥文（福島大学）

前島勇治・高田裕介・神山和則（農研機構）

齋藤 隆（福島県農業総合センター）

山口紀子（農研機構）

中尾 淳（京都府立大学）

藤村恵人（農研機構）

二瓶直登（福島大学）

古川 純（筑波大学）

信濃卓郎（北海道大学・日本学術会議特任連携会員）

司会 信濃卓郎・中尾 淳

妹尾啓史（東京大学・日本土壤肥料学会会長）



開催場所：パルセいいざか（福島県福島市飯坂町字筑前27-1、<https://paruse.fckk.jp>）

最寄駅：JR福島駅発－福島交通飯坂線（約21分） 飯坂温泉駅 徒歩8分

日時：2021年11月5日（金）10:20－16:30（無料）

定員：500名

詳細・講演要旨:日本土壤肥料学会HP（<http://jsspn.jp>）

参加申し込み:<https://forms.gle/XXHvmB9AWfAc5STR6>

申し込み後に講演要旨ダウンロードのための
パスワードをお知らせいたします。

Youtube ライブ配信も行います。
要登録



事前予約制ですので、11月2日まで上記URLよりお申し込みください。なお、締め切り後の問い合わせはshinano@chem.agr.hokudai.ac.jpまでお願いします。

*新型コロナウイルスの状況によっては開催方法の変更の可能性あり

主催：日本学術会議土壌科学分科会・IUSS分科会、（一社）日本土壤肥料学会

共催：国際土壌科学連合(IUSS)

後援：福島県、福島大学、農研機構

主催 日本学術会議歯学委員会 臨床系歯学分科会

共催 公益社団法人 日本矯正歯科学会

公開シンポジウム

「進化・発生・メカニカルストレスから探る 顎顔面形成・維持機構最先端」

令和3年11月5日(金)

10:30~12:30

オンライン視聴は
こちらのHPから可能です



※分科会の開催はありません。

開催趣旨

将来に向けて、口腔科学研究をより迅速に展開し、科学的な基盤に立脚した新たな歯科臨床を構築するためには、改めて顎顔面の形成・維持機構を再考して咀嚼器官の成立過程の時間的・機能的な変化とメカニズムの理解を深めることが重要です。重力の働く地球上に誕生した全ての生物の進化や生体組織のリモデリングには、力学的な刺激(メカニカルストレス)が常に影響を及ぼすために、骨格形成の進化的理解とともに哺乳類の骨格維持機構の理解が必要です。さらに、我国における健康長寿社会の推進には、すべてのライフステージにおける顎顔面の形態と機能の維持が不可欠です。そのためには、骨格、特に顎顔面骨、の進化的理解とメカニカルストレスを基盤とし、その形成・維持機構の理解を深めて、エビデンスに基づいた治療を創出することが重要です。このようなアプローチは、荷重を治療の手段として用いている現在の矯正歯科の診断や治療にも有用であり、大切なヒントを与えてくれます。

次第

開会挨拶

市川 哲雄先生(日本学術会議歯学委員会委員長、徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面補綴学分野 教授)

基調講演

講師

倉谷 滋先生

日本学術会議連携会員、理化学研究所開拓研究本部 倉谷形態進化研究室 主任研究員

座長

井関 祥子先生 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 分子発生学分野 教授

榎 宏太郎先生 昭和大学歯学部 歯科矯正学講座 教授

シンポジウム

講師

中島 友紀先生

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 分子情報伝達学分野 教授

上岡 寛先生

岡山大学 学術研究院医歯薬学域 歯科矯正学分野 教授

座長

山口 朗先生 日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学名誉教授 東京歯科大学口腔科学研究センター 客員教授

森山 啓司先生 日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野 教授

総合討論

後援：日本生命科学アカデミー

カーボンニュートラルに向けた 熱エネルギー利用の可能性と課題

日 時：2021年11月6日（土）13：00～17：15

場 所：早稲田大学リサーチイノベーションセンター（121号館）カンファレンスルーム
オンラインハイブリッド形式

日本の最終エネルギー消費のうち直接的な電力としての利用は26%で、残りの70%以上が化石燃料を用いた熱利用です。その一方で、全体として投入された一次エネルギーのうち6割以上が最終的に熱として廃棄されています。また、再生可能エネルギーの大量導入に伴って必要となる蓄エネルギーの手段としても熱エネルギー利用が注目を集めています。このような状況を考えると、カーボンニュートラル実現にとって生産プロセスにおける熱利用の脱炭素化や排熱など未利用熱エネルギーの活用は避けて通れない課題であると言えるでしょう。本シンポジウムでは、技術コスト、利便性、インフラ整備などの点で不利な条件が多く、進展への道筋が見えにくかった熱エネルギー利用の可能性と課題を考え、その重要性への理解を広めることを目的としています。

13：00 開会挨拶 所 千晴（早稲田大学教授，日本学術会議第三部会員）

13：05 趣旨説明

藤岡 恵子（株式会社ファンクショナル・フルイド代表取締役，日本学術会議特任連携会員）

13：20 「未利用熱エネルギーの現状とカーボンニュートラルへの展望」

小原 春彦（国立研究開発法人産業総合研究所執行委員・エネルギー環境領域領域長）

13：50 「産業分野のカーボンニュートラル化に求められる熱利用」

川村 公人（アサヒクオリティーアンドイノベーションズ株式会社社長付顧問）

14：20 休憩

14：30 「再生可能エネルギー導入拡大に貢献する蓄熱発電とその工業熱利用」

岡崎 徹（一般財団法人エネルギー総合工学研究所）

15：00 「熱エネルギー利用のためのインフラ・システム・制度など社会的条件の検討（仮）」

茂木 正（経済産業省・省エネルギー・新エネルギー部長）

15：30 休憩

15：40 総合討論

司会：藤岡恵子、パネリスト：小原春彦、川村公人、岡崎徹、茂木正

能村貴宏（北海道大学准教授）

17：10 閉会挨拶 岩城 智香子（日本学術会議連携会員、東芝エネルギーシステムズ株式会社
エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー）

下記より参加申し込みをお願いします

<https://bit.ly/3EWGzRx>

問合せ先

soumu@sce.j.org

共 催：公益社団法人化学工学会、早稲田大学理工学術院総合研究所

後 援：公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人 日本鉄鋼協会、一般社団法人
触媒学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会、一般社団法人資源・素材学会、一般社団法人 日本エネルギー学会、
一般社団法人 エネルギー・資源学会、一般社団法人環境資源工学会、日本LCA学会、NPOエコデザイン推進機構

協賛：公益社団法人石油学会、公益社団法人日本伝熱学会
（後援、協賛は予定を含む）

防災教育と災害伝承

日 時：令和3年11月6日（土）14時30分～16時

場 所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

主 催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、（一社）防災学術連携体

■開催趣旨

2011年東北地方太平洋沖地震により引き起こされた未曾有の大災害：東日本大震災発災から十年が経過した。発災の直後の被災対応から始まり、多くの課題を抱えつつ、復旧、復興に向けた様々な活動が進められてきている。津波による被害、地震の揺れによる被害、原子力事故などに起因する様々な災害が生じ、被災地や周辺地域での社会生活に大きな困難を及ぼしている。今後引き続き復興に向けた取組みを継続していくと同時に、この多くの犠牲を受けた災害から得た貴重な教訓を、東北と日本の今後の安全な社会実現のために活かしていく必要がある。一方、防災・減災に関わる学術分野においても、広域に生じた多様な被害実態とその分析から得られた新しい知見を、社会に展開していく責任がある。

災害軽減のためには、ハードからソフトの日頃の備えが重要であり、防災の実効性を高めるためには、過去の教訓を踏まえた上で、まず災害発生の本質をお年寄りから子供までが理解し、被災時の対応も含めた日頃の備えをしておくことが極めて重要である。そのためには、学校や社会における正しい防災教育と、その基となる災害そのもの、災害から得られた教訓を記録に残し、後世にきちんと伝えていくことが必要である。

本シンポジウムでは、東日本大震災後の10年間の経験と教訓を踏まえ、今後の防災教育と災害伝承のあり方、および進めるべき取組みについて、学術分野から発信する。

■プログラム

司会 田村和夫（日本学術会議連携会員、防災学術連携体事務局長）

14:30 趣旨説明 米田雅子（日本学術会議防災減災学術連携委員会委員長、東京工業大学特任教授）

14:40 基調講演：釜石市における防災教育と災害伝承（15分）
加藤孔子（いのちをつなぐ未来館名誉館長、岩手大学特命教授）

14:55 講演（10分×6＝60分）

- (1) 災害の記憶を継承するための工夫 日本建築学会 西澤泰彦（名古屋大学）
- (2) 災害エスノグラフィーを活用した自治体職員による災害伝承の取り組み
地域安全学会 柳谷理紗（仙台市役所）、田中 聡（常葉大学）
- (3) 復興まちづくりの技術伝承 日本都市計画学会 姥浦道生（東北大学）
- (4) 地理空間情報を活かした防災教育と災害伝承 日本地図学会 岡谷隆基（国土地理院）
- (5) 福島原発災害復興とふるさと創造学 日本地理学会 山川充夫（福島大学）
- (6) 学校・地域で進める防災教育と災害伝承 日本安全教育学会 戸田芳雄（日本安全教育学会）

15:55 閉会挨拶 大友康裕（日本災害医学会代表理事、東京医科歯科大学教授、防災学術連携体代表幹事）

16:00 終了

■参加申込

参加希望の方は次によりお申し込みください <https://ws.formzu.net/fgen/S43949681/>

本セッションのZoomウェビナーのURLは、申し込まれた方々にご連絡すると共に、11月5日頃に防災学術連携体のホームページにも掲載いたします。（防災学術連携体のホームページ：<https://janet-dr.com>）

■お問合せ先

防災学術連携体事務局 中川寛子

Tel: 03-3830-0188 email: office*janet-dr.com（*を@に変更して送信して下さい）



「ぼうさいこくたい 2021」セッション/日本学術会議公開シンポジウム

21 世紀の国難災害を乗り越えるレジリエンスとは ～防災統合知の構築戦略～

■日 時: 令和 3 年 11 月 6 日(土)16:30~18:00

■場 所: オンライン(Zoom、You Tube Live 配信)

■主 催: 日本学術会議土木工学・建築委員会 IRDR 分科会、防災減災連携研究ハブ(JHoP)

■開催趣旨: 南海トラフ地震、首都直下地震など巨大災害の発生が切迫している。また、地球規模の気候変動により、全国的に甚大な水害の発生危険性が高まっていて、経済・社会活動が集中する首都圏では深刻である。こうした国難級リスクに適切に備え、被害を軽減し、並びに早期に回復する力、つまり災害レジリエンスの向上を図るためには、既存の学問分野の枠組みに囚われず、人文社会科学も含めた「総合知」により立ち向かう必要がある。他分野で活躍する日本を代表する研究者らによって、その構想や戦略について討議する。

■プログラム

16:30 開会挨拶: 林 春男 (国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長、日本学術会議連携会員)

16:35 災害レジリエンスの「型」の構築

永松 伸吾 (国立研究開発法人防災科学技術研究所災害過程研究部門部門長/関西大学社会安全学部教授)

16:45 リアルタイム災害科学の創成とレジリエンスの数量化

越村 俊一 (東北大学災害科学国際研究所教授)

16:55 洪水予測を効果的に用いてレジリエンスを高めよう

宮本 守 (国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター 研究員)

17:05 インフラストラクチャー・レジリエンス・フレームワーク

大西 正光 (京都大学防災研究所巨大災害研究センター准教授)

17:15 被災現場の知見をいかにつないでいくのか—実務者と研究者の共創的取り組み—

荒木 裕子 (名古屋大学減災減災連携研究センター特任准教授)

17:25 統合知でレジリエンスを高めるオンライン・シンセシス・システム

井ノ口 宗成 (国立研究開発法人防災科学技術研究所主幹研究員/富山大学都市デザイン学部准教授)

17:35 総合討論 〈司会〉川崎 昭如 (日本学術会議連携会員、東京大学特任教授、未来ビジョン研究センター グローバル・コモンズ・センター)

17:55 閉会挨拶 小池俊雄 (国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)センター長、日本学術会議第三部会員)

■参加方法: ぼうさいこくたいホームページ(<https://bosai-kokutai.jp/>)のプログラムのページ(<https://bosai-kokutai.jp/program/>)に YouTube Live 配信用 URL を掲載いたします。事前申し込みは不要です。

■お問合せ: 国立研究開発法人防災科学技術研究所 イノベーション共創本部共創推進室

<mizumotos@bosai.go.jp, k-igarashi@bosai.go.jp>

日本学術会議・日本学校保健学会第67回学術大会
市民公開シンポジウム

幼小児期・若年期からの 生活習慣病予防

令和3年 **11**月**6**日(土) 公開

インターネット配信・オンデマンド形式、公開期間:令和3年11月30日(火)まで
詳細についてはこちら▶<http://web.apollon.nta.co.jp/jash67/simin.html>



QRコードからアクセス

参加無料・申込不要

座長 八谷 寛 (名古屋大学大学院医学系研究科国際保健医療学・公衆衛生学教授、日本学術会議連携会員)
佐藤 祐造 (名古屋大学名誉教授、健康評価施設査定機構理事長)

1) 開会あいさつ

磯 博康 (大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教授、日本学術会議会員)

2) 概要説明

わが国における生活習慣病予防対策-日本学術会議のこれまでの取り組み

八谷 寛 (名古屋大学大学院医学系研究科国際保健医療学・公衆衛生学教授、日本学術会議連携会員)

3) シンポジスト

保健教育における生活習慣病予防：その内容に関する歴史的検討と国際比較

高橋 浩之 (千葉大学教育学部教授)

子どもの「生活とからだ」を軸にして学ぶ保健の授業：小学校での生活習慣病の授業から

鎌田 克信 (東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科講師)

小中学生を対象とした生活習慣病予防のための健康副読本教育

～多機関が協働する、茨城県筑西市・秋田県井川町における副読本活用事業の紹介～

佐田 みずき (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学、筑波大学社会健康医学)

4) 閉会にあたって

佐藤 祐造 (名古屋大学名誉教授、健康評価施設査定機構理事長)

※事後アンケートへのご協力をお願い申し上げます。



学会全般に関するお問い合わせ：株式会社ブランドウ・ジャパン (運営事務局)

TEL: 03-5470-4401 FAX: 03-5470-4410 E-mail: jash67@nta.co.jp

内容に関するお問い合わせ：八谷 寛 (名古屋大学大学院医学系研究科国際保健医療学・公衆衛生学)

TEL: 052-744-2128 E-mail: h828@med.nagoya-u.ac.jp

主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会
日本学校保健学会第67回学術大会

カーボンニュートラル社会を支える最先端分析技術



2021年 11月11日(木)13:00-17:00

主催 日本学術会議

共催 日本分析化学会、日本化学会、日本工学アカデミー、日本分析機器工業会

総合司会： 佐藤 緑 産業総合技術研究所 総括研究主幹

13:00 開会のご挨拶

谷口 功 分析化学分科会委員長
国立高等専門学校機構理事長

13:15 基調講演

カーボンニュートラルに向けた技術課題

秋元圭吾 地球環境産業技術研究機構RITEグループリーダー

13:45 第一部：エネルギー課題

講演 1 再エネ技術開発における分析化学
グリーン水素用水分解光触媒の開発と分析化学
堂免一成 信州大学教授・東京大学特別教授

14:10 講演 2 省エネ技術開発における分析化学

無磁場STEMによる磁性材料・デバイス解析
柴田直哉 東京大学教授

14:35 講演 3 蓄エネ技術開発における分析化学

Na/Kイオン二次電池の材料開発と放射光解析
駒場慎一 東京理科大学教授
久保田圭 東京理科大学准教授

15:00 第一部まとめ：学術（分析化学・分析科学技術）
の役割と使命の観点から

加藤昌子 関西学院大学教授

15:15-15:25 休憩

15:25 第二部：環境課題

講演 4 リモートセンシングシステム
LIDARによる大気中CO₂分布測定
柴田泰邦 東京都立大学准教授

15:50 講演 5 環境分析機器開発

海洋マイクロプラスチックの高速検出とAI自動分類
北橋 倫 海洋研究開発機構

16:15 第二部まとめ：学術会議の役割と使命：社会への情報
発信に向けて

北川尚美 化学委員会副委員長 東北大学教授

16:25 パネルディスカッション

モデレーター：玉田 薫 九州大学教授

「エネルギー・環境技術開発において求められる最先端
分析技術、AIの活用は？」

16:55 閉会のご挨拶

茶谷直人 学術会議化学委員会委員長 大阪大学教授

17:00 閉会

参加申込方法



参加を希望される方は 11月10日(水)
までに下記URLまたは右のコード
により事前申込をお願いします。
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>
お問い合わせ：日本学術会議事務局企画課
学術フォーラム担当
電話番号 03-3403-6295

カーボンニュートラルへの取組み

日本学術会議 公開シンポジウム フードシステムと養殖の未来

私たちの食生活は高度に発達したフードシステムによって支えられているが、温室効果ガスの排出低減やフードロスの削減などの多くの課題があり、これからのフードシステムのあり方、その持続可能性が問われている。このような中、世界的に増大する水産物需要は今後も拡大すると予想され、安定的かつ持続的な水産物の供給への対応として水産養殖の発展が期待されている。

本シンポジウムでは、これからのフードシステムにおける養殖のあり方について、最前線の研究開発に加えて産業論や社会論の視点からも議論を行い、アカデミアにとどまらず広く社会に問題提起することを目的とする。

令和3年

11月12日(金)

13:00-17:00

オンライン開催
(Zoomウェビナー)
参加費無料

プログラム

13:00-13:05 趣旨説明 古谷 研(創価大学大学院理工学研究科、日本学術会議第二部会員)

座 長:伊藤 進一(東京大学大気海洋研究所)

13:05-13:35 「持続可能なフードシステムの構築」

中嶋 康博(東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議第二部会員)

13:35-14:00 「魚病および環境負荷について」

笠井 久会(北海道大学大学院水産科学院、日本学術会議連携会員)

14:00-14:25 「養魚飼料の現状と未来」

佐藤 秀一(福井県立大学海洋生物資源学部、日本学術会議連携会員)

座 長:佐野 元彦(東京海洋大学学術研究院)

14:25-14:50 「ゲノム編集育種の現状と課題」

木下 政人(京都大学大学院農学研究科)

15:05-15:30 「持続可能な食肉生産を目指した培養ステーキ肉の開発」

島 亜衣(東京大学大学院情報理工学系研究科)

15:30-15:55 「水産物流通消費の特徴と食品ロス」

八木 信行(東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議連携会員)

15:55-16:55 総合討論

司会:萩原 篤志(長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科、日本学術会議連携会員)

「食品ロスの現状と課題」 井出 留美((株)office 3.11)

パネリスト:井出 留美((株)office 3.11)、笠井 久会、木下 政人、佐藤 秀一、島 亜衣、中嶋 康博、八木 信行

16:55-17:00 閉会の挨拶 佐藤 秀一

主 催:日本学術会議食料科学委員会水産学分科会

共 催:水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会

後 援:大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物学会、日本魚病学会、国際漁業学会、

日本ベントス学会、日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、

マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会

Zoom ウェビナーによるオンライン開催 参加申込方法 (定員 1,000名)

参加をご希望の方は、11月6日(土)までに、下記URLまたは右にあるQRコードで参加申し込みサイトにアクセスして必要事項を入力の上、申し込みください。

<https://forms.gle/GGD2uUicmt7ksYQUA>

お申し込みいただいた方には、開催日までに、視聴用URLをメールにてご連絡いたします。

お問い合わせ先

高橋 一生(水産・海洋科学研究連絡会議幹事)

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科

TEL: 03-5841-5290 FAX: 03-5841-5308 E-mail: kazutakahashi@g.ecc.u-tokyo.ac.jp





日本学術会議公開シンポジウム

なぜSDGs？

～ 資源・材料循環におけるSDGsとカーボンニュートラル～

資源材料循環は、SDGsの中でも目標12「つくる責任 つかう責任」に直接的に関係し、昨今のカーボンニュートラル政策においても一層の促進が重要視され、社会システムのにも技術的にも変革が求められている。資源循環に対する課題は物質ごとに大きく異なるため、本シンポジウムでは特に金属資源循環におけるその現状と課題を俯瞰し、市民と共にその理想的な循環のあり方を議論する場としたい。

日時: 2021/11/26 (金) 14:00～18:00 (開場 13:30) ライブweb配信

場所: 東京大学生産技術研究所コンベンションホール

主催: 日本学術会議 材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同
SDGsのための資源・材料の循環使用検討分科会

共催: 東京大学生産技術研究所 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門 (JX金属寄付ユニット)、
東京大学生産技術研究所 持続型エネルギー・材料統合研究センター

14:00 開会の挨拶 岡部 徹 日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所長・教授

14:10 講演「資源循環とSDGs」

中村 崇 日本学術会議連携会員、東北大学名誉教授

14:55 講演「SDGsへの非鉄金属企業の貢献の現状と展望 ～資源・材料循環におけるSDGs～」

安田 豊 JX金属株式会社 取締役常務執行役員、金属・リサイクル事業部長、技術本部副本部長

15:40 講演「非鉄金属企業のSDGs取り組みと課題 ～プロセス面からの一考察～」

黒川 晴正 東京大学特任教授

16:25 講演「SDGsへの鉄企業の貢献の現状と展望」

齋藤 公児 日本学術会議連携会員、日鉄総研株式会社 シニアフェロー

17:25 パネルディスカッション

<パネラー> 上記講演者に加え、川口 幸男 一般社団法人日本メタル経済研究所 理事長

<ファシリテーター> 所 千晴 日本学術会議会員、早稲田大学教授、東京大学教授

17:55 閉会の挨拶 森田 一樹 日本学術会議連携会員、東京大学教授

18:00 終了

ライブweb配信URL

- ・ ニコニコ動画: <https://live.nicovideo.jp/watch/lv333559059>
- ・ YouTube: <https://youtu.be/83-9pg1CnHQ>



ニコニコ動画



YouTube

問合せ: 早稲田大学 理工学術院 所研究室 山内則近
n.yamauchi@kurenai.waseda.jp

主催：日本学術会議総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会

共催：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、日本身心一体科学研究会、一般社団法人日本女性科学者の会

後援：内閣府（予定）、文部科学省（予定）、経済産業省（予定）、独立行政法人日本学術振興会（予定）、国立研究開発法人科学技術振興機構（予定）、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、公益社団法人日本自動車技術会、日本宇宙生物科学会、生態工学会（予定）、他



日本学術会議 公開シンポジウム 科学的知見の創出に資する可視化（6）

総合知

～幸福論からみた身心・細胞力、
その真理の可視化～

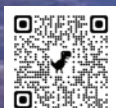
日時 2021年 11月30日（火） 13:00～17:00

会場 オンライン（無料）

プログラム

- 13:00-13:05 挨拶 吉村 忍（第三部部長、日本学術会議会員、東京大学教授、東京大学副学長）
- 13:05-13:10 挨拶 萩原 一郎
（分科会委員長、日本学術会議連携会員、明治大学研究・知財戦略機構研究特別教授）
- 13:10-13:15 来賓挨拶 内閣府（調整中）
- 13:15-13:25 全体趣旨説明 塩満典子（文部科学省科学技術・学術政策研究所上席フェロー）
「総合知による科学技術・イノベーションと多様な幸せの実現」
- 13:25-13:55 講演 荻野 弘之（上智大学教授）「「幸福とは何か」とはいかなる問いか？」
- 13:55-14:00 小憩
- 14:00-14:30 講演 林 伴子（内閣府男女共同参画局長）
「科学技術・イノベーション分野における女性活躍」
- 14:30-15:00 講演 山口 香（日本学術会議会員、筑波大学教授）
「嘉納治五郎が目指した日本人の心と身体」
- 15:00-15:15 質疑応答
- 15:15-15:45 講演 毛利 衛（宇宙飛行士、科学技術振興機構・参与、日本科学未来館名誉館長）
「宇宙からの視点～総合知から未来智へ」
- 15:45-16:15 講演 跡見 順子（日本学術会議特任連携会員、東京農工大学工学府客員教授・東京大学名誉教授）
「文理融合のための『丹田の可視化』が生む総合知」
～身につける「細胞・身心一体科学」
- 16:15-16:55 パネルディスカッション「宇宙時代の総合知と身心・細胞力」
司会 清水美穂（東京農工大学工学府客員准教授）
講演登壇者、ほか
- 16:55-17:00 閉会の挨拶 小山田 耕二（総合工学委員長、日本学術会議会員、京都大学教授）

事前
申込み



お申し込みは
Peatixから
<https://bit.ly/3oXq1TO>

問合せ

東京農工大学工学府材料健康科学寄附講座（担当：清水）
TEL:042-388-7539 [hucs.kenkyukai\[at\]gmail.com](mailto:hucs.kenkyukai[at]gmail.com)

[at]を@に変更してください

公開シンポジウム

コロナ禍における人間の尊厳

— 危機に向き合って —

2021年12月5日（日）13:30-17:00

オンライン開催（Zoomウェビナー・要事前申込）

申込フォームは日本学術会議HP「一般公開イベント」内本企画ページに

10月以降掲載予定（<http://www.scj.go.jp/ja/event/index.html>）

コロナ禍においては医療の逼迫した状態のなか、患者、医療者、市民の一人ひとりが必ずしも**人としての尊厳**を守られているとは言えない状況が現出している。さらに死者について人間らしい死とその弔いも守られることのない事例が生じている。しかし緊急事態だからやむを得ないのだろうか。本来「**人間の尊厳**」は、むしろ**危機**においてこそ守られるべき価値ではないのか。哲学、宗教研究、法学、医学の専門知と臨床の知見を集結し議論を深めたい。

司会 香川知晶（日本学術会議連携会員、山梨大学名誉教授）

13:30 開会挨拶 土井健司（日本学術会議連携会員、関西学院大学神学部教授）

13:40 報告 1 **コロナ・パンデミックと人間の尊厳の問題**

加藤泰史（日本学術会議連携会員、相山女学園大学教授、一橋大学名誉教授）

14:00 報告 2 **コロナ禍における『治療』へのアクセス**

— 尊厳・人権枠組はどのような役割を果たしうるのか —

建石真公子（日本学術会議連携会員、法政大学法学部教授）

14:20 報告 3 **危機に瀕する人間の尊厳—臨床の現場から—**

齊尾武郎（医師、フジ虎ノ門整形外科病院）

14:40 報告 4 **コロナ禍で障害のある人と家族が体験していること**

児玉真美（フリーライター、一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事）

15:15 コメント 1 美馬達哉（立命館大学先端総合学術研究科教授）

15:30 コメント 2 岡田真水（兵庫県立大学名誉教授、日蓮宗僧侶）

15:45 ディスカッション

16:50 閉会挨拶 吉岡洋（日本学術会議第一部会員、
京都大学こころの未来研究センター特定教授）

主催 日本学術会議哲学委員会

共催 日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合

お問い合わせ 日本宗教研究諸学会連合事務局 jfssr20084@gmail.com

